

当局権力の手先き=革マル・嶋田誠を許すな



動労千葉

85. 8. 9

No. 2011

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

他人の首を差して出て、当局に忠誠「命を賭す卑劣分子」動労本部革マルを「掃せよ！」

動労「本部」革マルは、監理委最終答申にもろ手を上げて賛成し、10万人首切り攻撃の先兵となりはてている。千葉局に一部巢食う「土屋」一派は、その組織的実態や力量がまるでないところから、又ぞろコロビ屋・嶋田誠を先頭に「デッチ上げ」を行ない、当局に処分を要請し、もって当局の選別1首切り攻撃の先兵をかってでている。当局・権力の手先きとなり、自から首を守るために他人の首を平然と差し出すこの反労働者分子を絶対に許すな。

国労共闘の前進に

大打撃をうける「土屋一派」

動労「本部」革マル「土屋」一派は、そもそも、動労千葉や国労の組織破壊・闘争破壊のみを任務として、当局にその存在価値を認められてきたという恥ずべき存在である。

であるがゆえに、この間の通対問題をめぐる国労・動労千葉の共闘の闘いの前進に大打撃を受けてしまったのである。

そこで再び起用されたのが、かの職業的コロビ屋、千葉局潜入革マル分子の嶋田誠であったのだ。

7月31日付「今、千葉で何が起きているのか」なる「土屋一派」のビラで、彼らは「7月22日、動労組合員がやっている千葉駅の臨時売店に『千葉動労』千葉転支部組合員・Aがきて暴言をはき、乗務停止になる」「このように通対業務からんで発生する処分攻撃」「問題は何故、簡単に処分を許してしまうようなことをやっているのか」と書きつらねている。

一体誰れが処分を要請したのか、自からデッチ上げてタレコミ、処分を当局に要請して「何故簡単に処分を許すようなことをやるのか」とは何故とか！

まさに、当局と一体化した姿、デマとペテンをこととする彼らの姿が鮮明である。

動労「本部」革マルは、現下の国鉄攻撃や、それと闘う者への処分に対する怒りの一カケラもないばかりか、「処分されたら終り」だから闘ってはいらない」という自からの奴隸的思想にもとづき、労働者は処分されたら屈服するにちがいないと思ひこみ、当局と一体となり卑劣なやり方で処分引き出しをはかっているのである。

どうしてこんな事が許せるか。

当局に首切りを要請する

動労「本部」革マルは、松崎明を先頭に、監理

動労「本部」革マル

動労「本部」革マルは、松崎明を先頭に、監理



・革マル佐藤（東洋大学出身革マルコロビ屋タレコミ分子=嶋田誠）
・革マル野口
職場「支部活動など」まるごとうちのけ、あつぱり出て、なげなしの土屋=津田支部（総員6名）のうち3名までが直売店に……。ちなみに、嶋田は「支部」長。

われわれは断固としてこれと対決し勝利しなければならぬ。
労働者の処分1首切りを要請する動労「本部」革マル、これと一体となり「処分」を策す当局に対し、全ゆる手段で反撃に起ち上がろう。